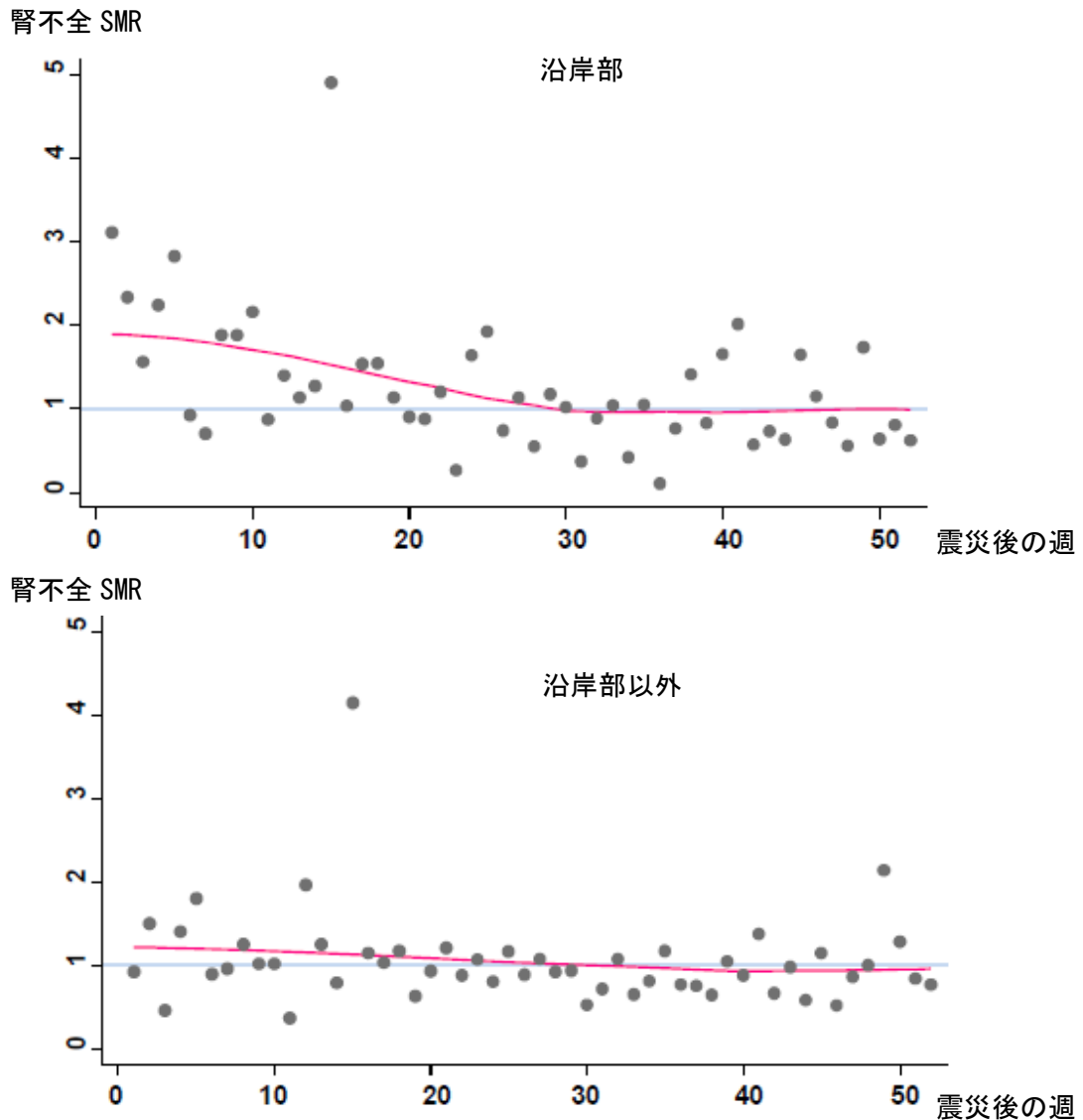


「人口動態統計に基づく東日本大震災前後の腎不全死亡」

東日本大震災前後の腎不全死亡について、岩手県、宮城県と福島県の3県で沿岸部と沿岸部以外の市町村別に、人口動態統計に基づいて検討しました。3県全体の腎不全死亡数をみると、震災前1年（2010年3月11日～2011年3月10日）が1,221人、震災後1年（2011年3月11日～2012年3月10日）が1,290人でした。

図に、沿岸部とそれ以外における震災後の週別腎不全 SMR（●）と傾向線（—）を示します。腎不全 SMR は、当該地域における震災後の各週の性・年齢階級別の腎不全死亡率について、震災前の同じ週の性・年齢階級別の腎不全死亡率に対する比の平均を指し、1.0より大きいときに震災後の腎不全死亡率が震災前より高いことを、逆に、1.0より小さいときに低いことを表します。

図. 岩手県、宮城県と福島県の沿岸部とそれ以外における震災後の週別腎不全 SMR と傾向線



沿岸部の腎不全 SMR は、震災後の第 1 週で震災前の 3.11 倍と有意に大きく、その後に低下して、第 20 週頃に 1.0 倍となりました。一方、沿岸部以外の腎不全 SMR は第 1 週で震災前の 0.93 倍と小さくなく、その後もほぼ一定の傾向でした。慢性腎不全 SMR も震災後に上昇傾向でしたが、急性腎不全 SMR にはそのような傾向が見られませんでした（図なし）。

以上、岩手県、宮城県と福島県の沿岸部において、震災後に腎不全死亡率が上昇傾向であり、一方、沿岸部以外ではそのような傾向がみられませんでした。（「Tsukinoki R, Murakami Y, Kawado M, Hashimoto S. Comparison of standardised mortality ratios for renal failure before and after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami: an analysis of national vital statistics. *BMJ Open*. 2018;8(12):e023435.」を参照）

（月野木ルミ）